

稲作情報

No.7【中干し以降の水管理】

J A えちご中越 さんとう営農センター
☎(0258) 41-2887

さんとう北営農センター	☎0258(74)3434
さんとう営農センター 営農課	☎0258(42)4133
こしじ営農センター	☎0258(92)5606

速報! 茎数が急増中です!! 茎数確保できたほ場から直ちに中干し開始しましょう!!

コシヒカリ生育状況 (6月10日調査: 生育調査16地点 平均値)

6月に入り晴天日が続く、日照時間の多い天候が続いていることから、水温・地温の上昇とともに茎数が急激に増加(指標値比:109%)しています。6月15日以降は、平年同様にくもりや雨の日が多くなる予報(梅雨入り間近)で茎数の急激な増加から過剰生育(→茎質低下)が懸念されます。ほ場ごとの生育(茎数)を確認して、目標茎数を確保できたほ場から“至急・直ちに”中干し・溝切りを開始して下さい!!

- * 草丈: 指標値比 98% → 平年並み~やや短い
- * 茎数: 指標値比 109% → やや多い~多い(ほ場差: 大)
- * 葉数: 指標値比 +0.3葉 → 平年並み~やや早い

地固めを開始して下さい!!
本格的な梅雨入り前に↓

地区	田植日	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)
寺泊	5/7	30.1	226	7.3
和島	5/8	27.2	280	7.7
出雲崎	5/5	30.9	270	7.2
与板	5/11	32.5	236	7.2
三島	5/5	28.8	263	6.8
越路	5/12	32.8	270	6.7
平均	5/8	29.3	250	7.3
指標値	5/10	30.0	230	7.0

1. 中干し以降の水管理

「地球にいいこと」「未来にいいこと」地域みんなで始めよう!!

(1) 「SDGs」な水管理の手順

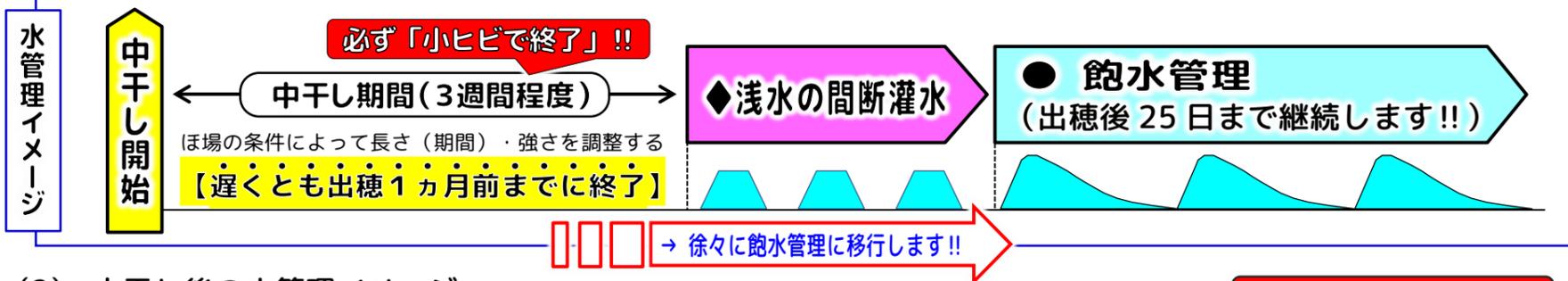
【図: 「1週間×延長中干し」のイメージ】

月日	6/5	6/15	6/25	7/5	7/15	7/25
稲作ステージ	有効分げ期 → 最高分げ期		幼穂形成期 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 出穂期			
慣行中干し	浅水	中干し	間断かん水 → 飽水管理 → → →			
1週間×延長中干し	浅水	1週間×延長中干し	間断かん水 → 飽水管理			

左図を参考に地域全体で「1週間×延長中干し」に取り組みましょう!!

地球温暖化に影響を及ぼしている「温室効果ガスの抑制」に向けてこれまで取り組んできた中干しを…「7日間延長するイメージ」で幼穂形成期前まで「延長中干し」に取り組みましょう!!

- * 注① 晴天が続くときは適宜入水して「大ヒビに注意」!!
- * 注② 入水した水は必ず1日以内に落水「長期湛水はダメ」!!



(2) 中干し後の水管理イメージ

作業内容	水管理の概要	ポイント
◆ 間断かん水	① 入水: 田面の高い部分が隠れる程度まで入水します。	深水にし過ぎない
	② 湛水: 根の機能低下防止のため、湛水期間は「1~2日程度」とします。	長期間湛水しない
	③ 落水: 入水完了から1~2日経過したら水尻をはらい、落水します。田面が乾ききる(田面が白くなる)前に「①入水」を開始します。	乾かし過ぎない
①~③の水管理を繰り返し行い、徐々に「飽水管理」に移行します。		
● 飽水管理	①' 入水: 田面の溝や足跡から水がなくなる前に入水を開始します。→ 田面の高い部分が隠れる程度(水位3~5cm)まで入水します。	深水にし過ぎない
	②' 自然落水: 水尻は、しっかり止水しておきます。自然な減水で田面に水がなくなり、溝や足跡の底の水がなくなる前に「①'入水」します。	乾かし過ぎない
出穂後25日以降まで①'~②'の水管理を繰り返し、根の健全化と地耐力の維持に努めます。		

2. カメムシ対策

全地域一斉による農道・畦畔、雑種地等の草刈り・除草の徹底により、地域全体でカメムシ類の発生密度を低下させましょう!!

「カメムシ被害撲滅運動」第2弾

第1回 一斉草刈りウィーク

6月8日(土)~15日(土)
実施中!!

重点的に除草する雑草

メヒシバ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、ナギナタガヤ

★ 雑草種子を結実させない!! **ポイント**

「幼穂形成期」以降は根の老化・減少が始まり、「新しい根」はほとんど発生しません!

補植苗は→直ちに撤去してください!!

根の「老化・断根」防止に向けて、中干し終了後には「飽水管理」に移行し、根の健全化に努めましょう!

~~ 営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ ~~

次回稲作情報: 6月下旬「生育速報、穂肥、病害虫防除」(予定)

田面を隠れる程度まで入水

3. 中間追肥

ケイ酸の施用は、高温条件下でも登熟の向上効果が期待できます。
ケイ酸質肥料の施用で「異常気象に強い米づくり」を実践しよう！



◆【ケイ酸質資材（中間追肥）の施用効果】

- ① 根張りの促進による倒伏軽減
- ② 登熟向上による乳白粒の発生軽減と食味向上
- ③ いもち病・ごま葉枯病への抵抗性の向上
- ④ 葉の蒸散機能が活性化して葉温を低下させる
- ⑤ 光合成の手助けをして日照不足などによる障害軽減 など
… が期待でき、高品質・良食味米の生産につながります。

肥料区分	資材名	施肥量	施用時期
ケイ酸質肥料	スーパーシリカプレミアム	20～40 kg/10a	出穂前 30～40 日頃
	けい酸加里プレミア 34	20～40 kg/10a	出穂前 35～45 日頃
加里肥料	塩化加里 60%(粒状)	7～10 kg/10a	出穂前 40 日頃
磷酸肥料	マグコープ	20 kg/10a	出穂前 30～40 日頃

【本田中・後期除草剤の活用ポイント】

本田内にヒエ・ホタルイ等の雑草が多発生・繁茂してしまうと・・・

- ① 水稻と雑草との間で“栄養の競合（奪い合い）”が発生します。
- ② 出穂した本田内の雑草は、カメムシ類の産卵・増殖場所となります。

いずれも、水稻の品質・収量に大きな影響を及ぼすことから、本田内にヒエ・ホタルイ等の雑草が発生してしまったら、中・後期除草剤（クリンチャー・バサグラン）を上手に活用して、しっかり雑草防除しましょう！

1. イネ科雑草（ノビエ）対策 → 「クリンチャー剤」

ヒエ：水田や湿地などに生える一年草で、イネの最大の害草（栄養競合、カメムシのエサ）となります。ノビエ類は毎年種子から発芽して生育し、夏から秋にかけて出穂・開花・結実して種子を土壌面に落下させ、翌年の発生源・繁殖源となっています。はじめに線形の葉が出て、やがて分げつして大きな株になり、イネよりも草丈が高くなります。7～9月に花穂を出し、多数の種子を生産します。



農作業中の熱中症や事故には、十分注意してネ!!

クリンチャー 1 粒剤（ノビエ：5 葉期まで *1.5kg/10a 散布）			クリンチャー EW（ノビエ：6 葉期まで）	
① 5cm 程度に湛水して散布	② 有効成分が水面に広がる (注：藻類・表層はく離)	③ ヒエに接触	① 落水した浅水状態	② 展着剤を入れて丁寧に散布
★ ヒエの葉身と水面がしっかり接触するよう水位を調整します。			★ 「展着剤+丁寧な散布」でヒエ本体にEW剤をしっかり付着させます。	

2. イネ科以外の雑草（ホタルイ等）対策 → 「バサグラン剤」

ホタルイ：湿地や池沼のほとりなどに生える多年草。水田では種子繁殖が主体で、種子は水田の湛水土中で発芽します。根元から多数の茎を出し、先に緑褐色で卵型の小穂を2～5個つけます。葉は退化して小さく、茎と連続しているように見えます。種子繁殖および株基部に形成される越冬芽による栄養繁殖を行います。繁茂させてしまうとイネの栄養分を奪い、出穂した小穂はカメムシの格好のエサ・産卵場所となります。

イネ科とイネ科以外の雑草が混発してしまったら・・・
「クリンチャーバス ME 液剤」を活用して下さい！

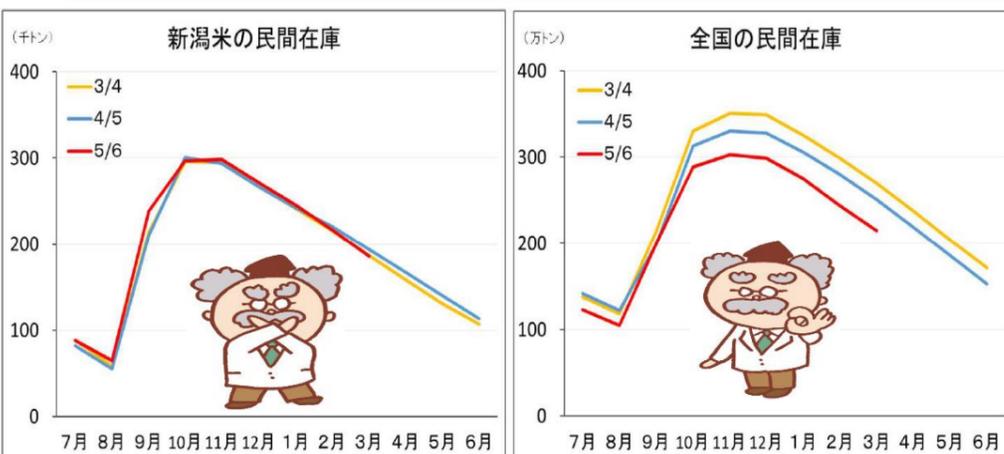


バサグラン粒剤・バサグラン液剤（ホタルイ：発生盛期～増殖中期）

① 水尻を切って落水する	② 足あと水状態になったら水口・水尻を止める	③ 雑草の発生箇所に粒剤・液剤を散布する
★ 散布した薬剤成分は、根部・茎葉部から吸収されます。なるべく水深を浅くしてから散布します。（* 乾かしすぎても効果が劣ります。）		
★ 晴天が続く日を選んで散布し、散布後3日間は入水・落水しないようにします。降雨があっても散布後7日間は、落水しないようにします。		

* 【注意】クリンチャー剤・バサグラン剤は、発生している草を枯らす「枯殺剤」です。これから発生しそうな発芽前の雑草を抑える抑草剤ではありません。早すぎる散布に注意して下さい！（★ 散布適期 = 発生初期：× → 増殖初中期：◎）

令和6年産米：「需要に応じた生産」の取り組みにご協力をお願いします!!



県産の令和5年産：主食用米は、昨年の猛暑や渇水等の影響を受け、全国で最も低い作況指数「95」でやや不良となりました。一方、左図のとおり、全国の民間在庫が前年・前々年の水準を下回って推移しているのに対し、新潟米の民間在庫は昨年の作柄不良にも関わらず、前年・前々年と同水準の在庫量となっており、仮に令和5年産が作況100となっていたら、令和6年産は更なる面積の転換に取り組まざるを得ない状況となっていました。

★★生産目安数量と同等の主食用米生産となるよう「需要に応じた生産」にご協力をお願いします!!★★